

「工業や工学」と聞いて、あなたは何を思い浮かべるだろうか。ドローンやバイオテクノロジー、AIなど、様々なものが上がるだろう。だが、“女性”のイメージを持つ方は殆どいないのではないか。だからといって、女性にはできない、不向き、sin や cos が必要ないというわけではない。むしろ、今の時代、女性こそ工学を学ぶべきだと私は思う。

私がそう思うようになったのは、マイコンのデザインコンテストに出場したことがキッカケだった。私は女だ。そして高専の情報通信システム工学科に在籍し、通信技術の基礎を学んでいる。やはり私のクラスも男子が多い。そこを逆手に取り、私たちは女子だけで出場チームを編成した。また、自分たちらしさをアピールするために、ターゲットを女子に絞った作品を製作することに決めた。

沖縄人として、そして女性として紫外線量が気になるという意見をもとにし、持ち運びしやすいコンパクトに様々な機能を搭載した。紫外線量を測定し強度を示す機能や、ミラーや小物入れなどだ。また、多機能な内装とは裏腹に外装はシンプルなデザインにした。それは、自分らしさを大切に現代の女性が、デコレーションなどのアレンジが加えやすいようにだ。この可愛いコンパクト一つで紫外線量や身だしなみをチェックできる。これなら世の中の女性は必ず喜んでくれる、そう確信すると同時に工業人として、女性として、沢山の想いを詰め込んだ作品になった。メンバー全員の努力もあってか、なんとかコンテストの予選を通過した。惜しくも本選での受賞は逃してしまったが、それでも、私が得たものはとても大きかった。適材適所の大切さ、マイコンに興味を持てたこと、そして何より、未来のビジョンが見えた、ということだ。

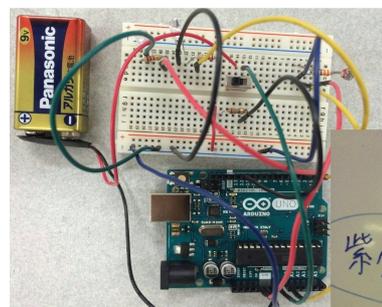
ターゲットを女子に設定し試行錯誤するうちに、工業の世界では希少種である女性の視点や意見と、自分がいま学んでいる技術を上手くかけ合わせれば、自分なりに誰かの役に立てるのではないか？ 靡げではあるが、未来を指し示す確かな何かを、このコンテストを通して私は掴むことができたのだ。

その後、私はコンテストに出場したことを発表するため、九州の高専で活躍する女子高専生だけを集めた、女子高専生フォーラムに参加する機会を頂いた。そこでは、本当に私と同年代なのかと疑うほど、多様な経験を重ね偉業を成し遂げた方々に出会った。遠い国に留学していたり、女子高専生がよりよい生活を送れるような制度を整えていたり、いろんな話を聞くたびに、多方面から刺激を受けた。そして、男子が多い高専の中でも、こんなにも多くの女子が立ち上がり、奮闘していることに感動するとともに多くの勇気ももらった。

私には今、一つの夢がある。それは、コンテストで楽しいと感じた”作品を提案”するような仕事に就く、ということだ。そのためにも、今まで得られたことを踏まえ、これからの専門の勉強にしっかり取り組んでいきたい。そして、情報工学では、プログラミングと回路のどちらにも力を入れ、情報工学だけに限らず生物学や機械工学、心理学なども深め、創造の幅を広げていきたい。情報工学とその他の技術、時には女性らしさを含む様々な視点を上手く「掛け算」できるようになりたいのだ。それらを活かして、周囲の女性にアンケートをとり作品を試作したり、コンテストにも積極的に参加して、経験を重ねたいと考えている。

女性としての視点と技術を掛け合わせ、世の中の女性がもっと楽しく人生を歩めるように、そして工業に興味をもってもらえるようなものを作り上げたい。

私は、工業をイメージしたときに、「女性が活躍している」そんな印象がもてるような社会づくりに貢献していきたいと強く思うのだ。



マイコン実物例

ディスカッションの様子

